



No.111  
2001-7-5

日本教育工学会ニュースレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階  
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp  
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

## 新世紀の日本教育工学会

第4代会長 清水 康敬

このたび21世紀スタートの年に日本教育工学会長に選出され、その責の重さを感じています。幸い、副会長に池田央先生、赤堀侃司先生にお願いでき、学会の顔としての編集長には多忙な坂元昂先生(第2代会長)にお引受けいただくことができました。これから2年間、理事・評議員の先生方と会員の皆様のご支援を得ながら、本学会の発展に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。本学会は、昭和59年(1984年)11月1日に設立されましたので、今年11月で丸17年になります。この間に教育工学は、科学研究費補助金の分科細目となり、この細目への申請件数が増えてきました。本学会員数も着実に増加しており、現在は1787名(名誉会員2名、正会員1532名、準会員84名、学生会員135名、維持会員28団体、特殊会員6団体)となりました。このように教育工学は学問的にも認められ、研究者も増えてきました。

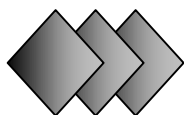
しかし、本学会の活動や会員構成を考えますと、産業界との連携が不十分のように思います。社会の情報化がこれだけ進んだ中で教育工学を考えた場合、企業や関係団体との協力関係を築くことによって、2000名規模の学会へより発展できるものと信じております。

今年度は、鹿児島大学における第17回全国大会や定期的な研究会、さらに合宿研究会などの研究集会と、学会論文誌、学会誌、英文誌、ニュースレターなどの発行事業をますます活性化するとともに、学会ホームページによる情報提供の充実を図りたいと考えています。

どうぞ皆様、積極的な参加をよろしくお願い致します。

### 本号目次

|                         |       |                    |    |
|-------------------------|-------|--------------------|----|
| 新会長の挨拶-----             | 1     | 投稿規定-----          | 15 |
| 日本教育工学会第17回大会のお知らせ----- | 2-7   | 原稿執筆の手引き-----      | 16 |
| 研究会の案内(7/21)-----       | 8     | 第8期第14回理事会議事録----- | 17 |
| 研究会の発表募集(8/25)-----     | 9     | 第8期第15回理事会議事録----- | 18 |
| 研究会の今後の予定-----          | 10    | 第17回通常総会議事録-----   | 19 |
| 夏の合宿研究会の案内-----         | 11-12 | 新入会員/学会日誌等-----    | 20 |
| シンポジウム報告-----           | 13-14 |                    |    |



# 日本教育工学会 第 17 回全国大会のお知らせ

(第 3 報 発表申込み案内・参加申込み案内)

学会ホームページ <http://www.japet.or.jp/jet/>



日本教育工学会第 17 回大会を、下記のように鹿児島大学教育学部において開催します。多くの皆様方にご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。また、多数の研究発表申し込みをお待ちしております。

発表申込みの締め切りは  
7月27日(金)です!

## 1. 開催期日・会場

日時：2001 年 11 月 23 日(金)～24 日(土)

会場：鹿児島大学教育学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元 1-20-6)

## 2. 大会日程・プログラム概要

| 第 1 日 11 月 23 日(金)           | 第 2 日 11 月 24 日(土)   |
|------------------------------|----------------------|
| 10:00～12:00 一般研究発表           | 9:30～12:00 一般研究発表    |
| 12:00～13:30 昼食, 理事会評議員会      | 12:00～13:00 昼食       |
| 13:30～15:30 シンポジウム           | 13:00～15:00 シンポジウム   |
| 15:45～17:45 課題研究発表           | 15:15～17:45 一般研究発表   |
| 18:30～20:30 懇親会「ジェイドガーデンパレス」 | 17:45～19:30 自主シンポジウム |
| 会場から送迎バス(約 10 分)             |                      |

### ◆ シンポジウム(趣旨は「お知らせ第2報」をご覧ください)

I 総合的な学習の時間でどのように学力を保証するか

ー情報活用の実践力をつける授業づくりとはー

コーディネータ:堀田 龍也(静岡大), 黒上 晴夫(金沢大)

II インターネット全校接続は学校に何をもたらすか

ー学校教育におけるインターネット利用の諸問題を検討するー

コーディネータ:大谷 尚(名古屋大), 永野 和男(聖心女子大)

### ◆ 課題研究(趣旨は「お知らせ第2報」をご覧ください)

(K-1) 高等教育の革新と教育工学

コーディネータ:赤倉 貴子(東京理科大), 伊藤 紘二(東京理科大)

(K-2) インターネットで遠隔資源を活用する新しい教育・学習

コーディネータ:正司 和彦(兵庫教育大), 黒田 卓(富山大)

(K-3) 新しい形態の授業に関する授業研究および評価

コーディネータ:吉崎 静夫(日本女子大), 木原 俊行(大阪市立大)

(K-4) 教師教育におけるメディアリテラシーと情報リテラシー

コーディネータ:生田 孝至(新潟大), 近藤 勲(岡山大)

(K-5) 初中等学校における ICT 活用教育のケーススタディ(企画)ーOECD IEA の調査研究ー

コーディネータ:山田 恒夫(メディア教育開発センター), 清水 克彦(国立教育政策研)

(K-6) 学習コンテンツの開発流通と評価

コーディネータ:坂谷内 勝(国立教育政策研), 五藤 博義(不思議ネット)

(K-7) 協調学習の評価のための実践と理論

コーディネータ:加藤 浩(メディア教育開発センター), 平嶋 宗(九州工大)

English Session

コーディネータ:山内 祐平(東京大), 稲葉 晶子(大阪大)

## ◆ 自主シンポジウム

会員の自主的な企画・運営によるシンポジウムです。大会企画委員会が本学会にふさわしいテーマであり運営的にも可能であると認めた場合に開催が許可されます。なお、テーマと趣旨はプログラムに掲載されますが、予稿は予稿集には掲載されません。開催希望者は、代表者の氏名・所属・連絡先、シンポジウムのテーマ、300～400字の開催趣旨、プログラムの概要をA4サイズで1ページにまとめたものを(書式は任意)、7月27日必着で大会企画委員会に郵送、またはWordかPDFのファイル形式でjet-kadai@mr.hum.titech.ac.jpに送付してください。

## ◆ 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込の状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。

- (1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 (3)教師教育 (4)看護・福祉教育 (5)障害児・者教育
- (6)社会人教育・生涯学習 (7)教育評価・データ解析 (8)授業研究 (9)授業設計・実践
- (10)高等教育における教育方法 (11)教育ソフトウェア開発 (12)学習コンテンツ開発
- (13)Webベース学習・訓練システム (14)認知モデルと知的学習支援システム
- (15)インターネットを利用した授業実践 (16)教育メディア (17)遠隔教育・遠隔学習
- (18)協調学習と協調作業 (19)その他

## 3. 大会までのスケジュール

- 7月27日(金) 発表申し込み締切
- 8月20日(月) 課題研究採否決定通知
- 8月31日(金) 発表原稿締切 (課題研究, English Session, 一般研究とも)
- 10月30日(火) 参加費送金期限

## 4. 参加費等

|       |    |        |             |             |
|-------|----|--------|-------------|-------------|
| 大会参加費 | 事前 | 3,500円 | 2,000円(学生)  | 10月30日(火)まで |
|       | 当日 | 4,000円 | 2,500円(学生)  |             |
| 論文集代  |    | 4,000円 |             |             |
| 論文集送料 |    | 500円   | (参加しない場合)   |             |
| 論文掲載料 |    | 2,000円 | (別刷100部を含む) |             |
| 懇親会費  |    | 5,500円 |             |             |

## 5. 大会への参加申し込みについて

参加申し込みは、前二ニューズレター同封の郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、10月30日(火)までに参加費をお振込みいただくことで、受け付けさせていただきます。10月30日(火)以降は、振込をなさらないで下さい。当日会場にて、当日参加を受け付けます。

## 6. 大会での発表申し込みのガイドライン

本大会での発表の申し込みは、次のようなガイドラインに従ってください。なお、ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。

### (1) 発表申し込み方法 7月27日(金) 締切

- ・この案内についている申込書に記入の上、7月27日までに、郵送(消印有効)、ファクシミリ、または申込書と同等の内容を電子メールにて送付してください。申込書は一般研究用と課題研究・English Session用に分かれていますので間違えないようにしてください。
- ・課題研究とEnglish Sessionについては申込書に添えてA4サイズ2ページの原稿下書を提出してください。原稿下書によって発表の可否を審査します。なお最終原稿は改めて下記により提出してください。

### (2) 原稿の提出 8月31日(金) 締切 必着

- ・課題研究、English Session、一般研究のいずれもA4サイズで2頁です。1頁のものは受け付けません。

- ・全てのセッションについて、最終原稿（紙）のオリジナルとコピー1部、ならびにこの案内に添付されている大会原稿提出票（のコピー）に記入したものを、郵送あるいは宅配便にて、8月31日（金）必着で下記の宛先までお送りください。書留にはしないでください。
- ・原稿用紙は送付しません。この案内に添付されている原稿見本、もしくは大会ホームページに示す内容に従って作成してください。

### (3) 発表者の資格

- ・[発表者]は、論文掲載料2,000円を支払うことに同意した本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。
- ・この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし、発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

### (4) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[一般研究・課題研究・English Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。自主シンポジウムにはその制限は適用されません。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込みはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は「一般研究」として申し込むことができますが、既に「一般研究」にも申し込みをしている場合には、それを取り下げる必要があります。

### (5) 課題研究の審査

- ・課題研究に申し込まれた発表は、担当コーディネータが発表の可否について審査します。
- ・発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、8月20日（月）までに申込者に連絡します。

### (6) 発表申し込み先・原稿送付先

E-mail: 課題研究発表・English Session [jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jp](mailto:jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jp)  
 (E-mailによる申し込みの場合、原稿下書はPDFあるいはWordの添付ファイルとしてください)

一般研究発表 [jet-ippan@mr.hum.titech.ac.jp](mailto:jet-ippan@mr.hum.titech.ac.jp)

郵送: 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 大学院社会理工学研究科 室田研究室気付 大会企画委員会 宛

## 7. 会場の設備について

全ての会場で、[ビデオ（VHS）]と[OHP]、[液晶プロジェクタ]を使用することができます。ビデオはSVHSには対応しておりませんのでご注意ください。なお、液晶プロジェクタへのパソコン接続は、発表者の責任でご対応下さい。

## 8. 宿泊案内について

この時期の鹿児島は観光シーズンです。また連休でもありますので、混雑が予想されます。JRジョイロードをご利用いただくなど（案内は前号のニューズレターに同封）、交通機関・宿泊のご準備を早めに行われますことをお勧めいたします。

|                 |                    |                   |
|-----------------|--------------------|-------------------|
| 大会企画委員会         | 委員長：伊藤 紘二（東京理科大）   | 副委員長：吉田 貞介（金沢学院大） |
| 委員：赤倉 貴子（東京理科大） | 浅田 匡（神戸大）          | 生田 孝至（新潟大）        |
| 大谷 尚（名古屋大）      | 加藤 浩（メディア教育開発センター） | 黒上 晴夫（金沢大）        |
| 黒田 卓（富山大）       | 五藤 博義（不思議ネット）      | 近藤 勲（岡山大）         |
| 坂谷内 勝（国立教育政策研）  | 正司 和彦（兵庫教育大）       | 園屋 高志（鹿児島大）       |
| 平嶋 宗（九州工業大）     | 美馬 のゆり（はこだて未来大）    | 室田 真男（東京工業大）      |
| 山内 祐平（東京大）      |                    |                   |

課題研究発表申込書（締め切り：7月27日(金)）

English Session もこの形式で申し込んでください。

E-mail による発表申込者は、この申込書は不要です。

発表者 \_\_\_\_\_ 会員番号（ラベル紙参照） \_\_\_\_\_ 入会手続中（ 印）

連名者 \_\_\_\_\_ 原稿提出までに送金

所 属 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_

Tel \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

表 題 \_\_\_\_\_

A4 サイズ 2 ページの原稿下書を別紙として添付すること

発表希望セッションに 印をご記入ください（課題研究 K-5 は一般公募を行いません）。

採否は、8月20日（月）までに連絡します。

- K-1 「高等教育の革新と教育工学」
- K-2 「インターネットで遠隔資源を活用する新しい教育・学習」
- K-3 「新しい形態の授業に関する授業研究および評価」
- K-4 「教師教育におけるメディアリテラシーと情報リテラシー」
- K-6 「学習コンテンツの開発流通と評価」
- K-7 「協調学習の評価のための実践と理論」

E English Session

-----  
一般研究発表申込書（締め切り：7月27日(金)）

発表者 \_\_\_\_\_ 会員番号（ラベル紙参照） \_\_\_\_\_ 入会手続中（ 印）

連名者 \_\_\_\_\_ 原稿提出までに送金

所 属 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_

Tel \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

表 題 \_\_\_\_\_

発表希望セッションに ， 関連セッションに をご記入ください。ご希望に添えない場合もあります。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| (1) 語学教育・国際理解     | (11) 教育ソフトウェア開発       |
| (2) 情報教育          | (12) 学習コンテンツ開発        |
| (3) 教師教育          | (13) Web ベース学習・訓練システム |
| (4) 看護・福祉教育       | (14) 認知モデルと知的学習支援システム |
| (5) 障害児・者教育       | (15) インターネットを利用した授業実践 |
| (6) 社会人教育・生涯学習    | (16) 教育メディア           |
| (7) 教育評価・データ解析    | (17) 遠隔教育・遠隔学習        |
| (8) 授業研究          | (18) 協調学習と協調作業        |
| (9) 授業設計・実践       | (19) その他              |
| (10) 高等教育における教育方法 |                       |

# 日本教育工学会第17回全国大会

The 17th Conference on Educational Technology

鹿児島 太郎

Taro KAGOSHIMA

鹿児島大学教育学部

Faculty of Education, Kagoshima University

< あらまし > 日本教育工学会第 17 回全国大会が平成 13 年 11 月 23 日(金)~24 日(土)の 2 日間、鹿児島大学で開催される。発表申込み、参加事前登録は、本学会事務局ではなく東京工業大学であるので、注意されたい。原稿締切は、平成 13 年 8 月 31 日(金)必着である。大学事務に迷惑にならないように、書留にはしない。宅配便は研究室まで届けられるので、便利である。

原稿はオフセット印刷をする都合上、写真や図版は、直接プリントするか、貼り付けていただきたい。

< キーワード > 下のキーワード一覧を参考に、5 ~ 6 個のキーワードを列挙する。

本文は 2 段組にしてください。

| キーワード一覧 関連すると思われるキーワードを列挙してあります。記入の参考にしてください。 |            |                  |           |                |         |
|---|------------|------------------|-----------|----------------|---------|
| 教育目標  | カリキュラム     | 教育課程             | 総合的な学習の時間 | 自己学習力          |         |
| 教育情報  | C A I      | 教育情報処理           | データ解析     | 数理モデル(例:グラフ理論) |         |
| シミュレーション                                      | 資料収集       | データ解析ツール         | 情報教育      | 情報リテラシー        |         |
| 情報処理システム                                      | プログラムミング言語 |                  | 情報処理教育    |                |         |
| 学校事務処理  | 統計処理       | 情報検索             | データベース    | 情報管理           | システム評価  |
| 標準化   | システム設計     | システム開発           | ネットワーク    | Web 利用         | インターネット |
| Eメール  | インターネット倫理  |                  | 著作権       |                |         |
| 知識ベース   | 知識工学       | 知的学習支援システム       |           | 訓練支援システム       | 学習者モデル  |
| 思考モデル   | 知識表現       | 推論機構             | 知識獲得      | 言語インタフェース      |         |
| エキスパートシステム                                    |            | 人工知能             | 認知発達      | 知的インタフェース      |         |
| テキストマイニング                                     |            | データマイニング         | 思考の外化     | バーチャルリアリティ     |         |
| 教育メディア  | 教材管理       | 教材開発             | 教具開発      | 教育機器管理         | 学習コンテンツ |
| インストラクショナルデザイン                                |            | 教育ソフトウェア開発       |           | ヒューマンインタフェース   |         |
| 教育機器利用  | 遠隔教育・学習    | 放送教育             | 視聴覚教育     | メディアリテラシー      |         |
| マルチメディア                                       | 学習環境       | コミュニケーション        |           |                |         |
| 教授法   | 授業スキル      | 学習スキル            | 教育評価      | 学力調査           | 教育統計    |
| 教育測定  | 評価項目       | テスト              | 学力        | 知能             | 適性      |
| 性格  | 意欲         | 学習指導             | 授業研究      | 授業分析           | 授業設計    |
| 授業実践  | 生徒指導       | 生活指導             | 進路指導      | 教育方法           | 教育学     |
| 協調学習  | CSCL       | グループ学習           | 研究方法論     | 質的研究           |         |
| 教育経営  | 学級経営       | 教育施設(視聴覚ライブラリなど) |           | 学校開放           | 学校規模    |
| 教育設備  | オープンスペース   | 学習環境             | 校具        | 学校保健           | 管理組織    |
| 教育施策  | 教育制度       |                  |           |                |         |
| 企業内教育   | 社会人教育      | 生涯学習             | 教師教育      | 現職教育           | 幼児教育    |
| 幼稚園教育   | 学校教育       | 小学校教育            | 中学校教育     | 高等学校教育         | 高専教育    |
| 大学教育  | 高等教育       | 技術者教育            | 教科教育      | 養護教育           | 障害児・者教育 |
| 治療教育  | 語学教育       | 日本語教育            | 国際理解教育    | 看護教育           | 福祉教育    |
| 自己啓発  | 自己評価       | O J T            | 人材開発      | 野外学習           | 国際協力    |

# 日本教育工学会 大会原稿提出票

(必要に応じてコピーして下さい)

原稿(オリジナルとコピー1部)と共に、この「大会原稿提出票」を必ずお送り下さい。

題名: \_\_\_\_\_

発表者は会費納入の会員でなければなりません。(原稿提出時に確認できないと発表取り消しになります)

| 著者(発表者に 印) | 所 属 | 会員番号 |
|------------|-----|------|
|            |     |      |

発表部門 ( 印)    1. 課題研究                      2. 一般研究                      3. English Session

## 1. 課題研究 (申込み課題番号に 印をつけてください)

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| K1 高等教育の革新と教育工学              | K4 教師教育におけるメディアリテラシーと情報リテラシー |
| K2 インターネットで遠隔資源を活用する新しい教育・学習 | K6 学習コンテンツの開発流通と評価           |
| K3 新しい形態の授業に関する授業研究および評価     | K7 協調学習の評価のための実践と理論          |

## 2. 一般発表

発表希望セッションに \_\_\_\_\_, 関係セッションに \_\_\_\_\_ をつけてください。ご希望に添えない場合があります。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| (1) 語学教育・国際理解     | (11) 教育ソフトウェア開発       |
| (2) 情報教育          | (12) 学習コンテンツ開発        |
| (3) 教師教育          | (13) Web ベース学習・訓練システム |
| (4) 看護・福祉教育       | (14) 認知モデルと知的学習支援システム |
| (5) 障害児・者教育       | (15) インターネットを利用した授業実践 |
| (6) 社会人教育・生涯学習    | (16) 教育メディア           |
| (7) 教育評価・データ解析    | (17) 遠隔教育・遠隔学習        |
| (8) 授業研究          | (18) 協調学習と協調作業        |
| (9) 授業設計・実践       | (19) その他              |
| (10) 高等教育における教育方法 |                       |

論文掲載料(2,000円,別刷り100部含む)を支払うことに、 1. 同意する( \_\_\_\_\_ をしてください)  
(同意できない場合は発表することはできません)

連絡先 住所 〒 \_\_\_\_\_

所属 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_



研究会の開催

## 新しい学習環境の展開 ～研究の広がり～

日時：2001年7月21日(土)

場所：大阪大学人間科学研究科(大阪大学吹田キャンパス)

担当：西端律子(大阪大学人間科学研究科)

研究会への参加は、当日受付にて同研究会の報告集(1000円)をご購入いただければ、一般の方でも可能です。

9:30 受付開始

プログラム：

発表時間：発表1件につき、20分(発表15分、質疑5分)の持ち時間です。

10:10～11:50 -----

- (1) 「行動主義学習理論の発展と応用～文脈(環境)が学習に及ぼす影響について～」  
田中さやか(大阪大学大学院人間科学研究科)
- (2) 「分散ポートフォリオにおける交流への期待と振り返り」  
長瀬久明・福水浩一・森広浩一郎・岡田雅樹・正司和彦(兵庫教育大学)
- (3) 「Web-DB連携による電子ポートフォリオシステムの開発」  
岡田雅樹(兵庫教育大学)・正司和彦(兵庫教育大学)
- (4) 「2005年の授業をデザインするための調査研究(2)」  
佐々木弘記・梶元達也(岡山県教育センター)、平松茂・太田淳一(岡山県情報教育センター)、桜林正巳・三田美木子(松下視聴覚教育研究財団)
- (5) 「『教育の情報化』を支援する提示型コンテンツに関する研究」  
石井聡(岡山県牛窓町立牛窓西小学校)・佐々木弘記(岡山県教育センター)

13:00～14:30 -----

- (6) 「高等学校普通教科「情報」教材開発のための情報機器利用調査」  
齋藤智世(静岡大学大学院情報学研究科)、堀田龍也・山本和明(静岡大学)
- (7) 「教育情報化コーディネータの養成研修における受講者の意識と研修効果」  
河野慎治(静岡大学大学院)、堀田龍也・山田文康(静岡大学)、永野和男(聖心女子大学)
- (8) 「マルチメディア環境における語学授業・自習支援システムEDLIN(Education Learning Instruction Network system)の開発および評価」  
林俊成(東京外国語大学外国語学部)
- (9) 「語学学習用の音楽CD(CD-DA)をCALL教材として使うには」  
風斗博之(東北学院大学)

14:40～15:50

- (10) 「チームティーチングにおける教師の実践力に関する事例的研究ー総合的学習の視点からー」  
岡部昌樹(金沢経済大学)
- (11) 「自動学習情報取得システムの開発と学習モードの多様化」  
吉田雅巳(メディア教育開発センター)、上岡雅史(千葉大学大学院理学研究科)
- (12) 「開発途上国の僻地教育を支援する通信衛星教育番組受信方法の開発(2) 受信サイトでの衛星放送受信機材の設置と実験放送」  
大作 勝(安田女子大学・人間科学科)、吉田雅巳(メディア教育開発センター)、森田俊信(湧永製薬(株))

16:00 閉会 -----

会場へのアクセス

\*大阪(梅田)・新大阪からの場合(大阪駅から50分 新大阪駅から45分)

電車-バス利用

<地下鉄御堂筋線・北大阪急行>大阪駅(梅田駅)-新大阪駅-千里中央駅

<阪急バス「阪大本部前」または「茨木美穂ヶ丘」行>千里中央-阪大本部前下車すぐ

\*大阪伊丹空港からの場合(伊丹空港駅から45分)

モノレール利用

<大阪モノレール「門真市」行>伊丹空港駅-万博公園前駅のりかえ

<大阪モノレール「阪大病院」行>阪大病院前駅で下車

その他、JR茨木駅、阪急茨木市駅よりバスが運行されています。

詳細は、大阪大学人間科学研究科のホームページをご覧ください。 <http://www.hus.osaka-u.ac.jp/common/access/>





研究会の発表募集

## ITを利用した教育実践と教員教育

期日切迫!

日時：2001年8月25日(土)  
会場：東京学芸大学(東京都小金井市貫井北町)  
開催担当：任都栗 新(東京学芸大学 留学生センター)

アクセス：武蔵小金井駅(東京駅からJR中央線快速約40分)から京王帝都バス(小平団地行)で学芸大正門下車

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~kouhou/koutsu.html>

応募：発表申込書を郵送またはファクシミリで、もしくは同じ内容を電子メールで研究会事務局宛にお送りください。

申し込み締切：2001年7月21日(土)到着分まで。締切後、応募者宛に7月24日(火)に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択者には執筆要項が電子メールにて送付されます。

1 原稿見本(今回は、原稿枚数を6頁とします)

<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/mihon6.PDF>

2「キーワード一覧」(PDF形式)

<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/keyword.PDF>

原稿提出：2001年8月6日(月)必着(夏期休暇等ありますので、特に厳守をお願いします。)

期日に余裕がなく申し訳ありません。原稿提出のない場合、発表取消とします。

募集内容：今回の研究会では、IT技術を利用した教育を行える教員の養成の実践と課題、学校環境の中でのパソコンの利用やパソコンを利用した総合的学習についての実践、また、遠隔教育、マルチメディアコンテンツを利用した授業の実践などについての発表を募集いたします。なお、教育工学領域一般の発表も受け付けております。

注意：別刷りは廃止となりました。ご了承ください。

発表申込書を郵送またはファクシミリで、もしくは同じ内容を電子メールで、研究会事務局宛てにお送りください。なお、研究会に関するご質問・応募は、研究会事務局までお問い合わせください。くれぐれも会場担当へは送らないでください。その場合、申し込みが受理できない場合があります。

|   |              |
|---|--------------|
| 日本教育工学研究会 発表申込書(拡大コピーして使用してください)                        | 申込日__年__月__日 |
| ・発表希望研究会：開催月__月__ テーマ_____                              |              |
| ・発表題目：_____   |              |
| ・氏名と所属(記入例： XX( 大学)、 (xxx大学) ) (発表者に )：                 |              |
| ・発表要旨：_____   |              |
| ・発表内容の領域(プログラム作成時に利用します)：テーマ・一般(いずれかに をつけてください)         |              |
| ・使用希望機器：  |              |
| ・執筆要項送付先 e-Mail アドレス _____                              |              |
| 〒_____ 宛  |              |
| 原則、電子メールならびにPDF形式で執筆要項をお送りしております。郵送希望の方はその旨、欄内にお書きください。 |              |

## 研究会の今後の予定



今年度も、研究会を隔月のペースで実施しております。今年度も教育工学研究と教育現場において重要な課題をテーマに設定し、研究会を企画しております。会場では、発表者との質疑はもちろんです。同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まっておりますので、さまざまな方と意見交換される場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育工学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただけます。テーマに即した研究発表だけでなく、教育工学領域一般の発表も行われます。

- 2001年 7月21日(土) 研究会開催 『新しい学習環境の展開～研究の広がり～』  
大阪大学人間科学研究科(大阪・吹田キャンパス)
- 8月25日(土) 研究会開催 『ITを利用した教育実践と教師教育』  
東京学芸大学
- 11月3日(土) 研究会開催 『ITと国際協力』  
琉球大学
- 2002年 1月26日(土) 研究会開催 『教育工学における新しい研究方法論』  
名古屋大学
- 3月2日(土)\*<sup>1</sup> 研究会開催 『授業研究と教育評価』  
宮城教育大学
- \*<sup>1</sup> 入試日程などで変更される可能性があります。

## 研究会報告



5月27日(日)、日本教育工学会研究会が山口大学教育学部で開催されました。「情報教育と総合的な学習の時間～これからの教師に求められる資質・能力とは～」をテーマに、2会場での発表件数は20件、参加人数は約70名(南は宮崎から北は福島まで)にのぼり、午後3時より開催されたシンポジウムでも多くの参加者による活発な意見交換が行われました。

シンポジウムは午後3時～5時まで、以下のパネリストを迎えて行われました。

テーマ 『総合的な学習の時間の現状と課題』

パネリスト：原 克彦(園田学園女子大学) 有用な教材情報の観点から  
堀田 龍也(静岡大学情報学部) 全国の取り組み状況の観点から  
横田 学(京都府教育委員会) 教員研修の観点から  
渡辺 芳雅(三田尻女子高等学校) 高等学校における現状の観点から

司会：林 徳治(山口大学教育学部)

<http://hayashitokuji.com/news/2001.05.27.html>

## 研究報告集年間購読の勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。また、個人・機関のどちらでもご予約できます。予約価格：年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計約500ページほどになります。価格は郵送料込みで¥3,500です(当日売りは割高になります)。研究会事務局までお問い合わせください。また、研究会会場受付でもお申し込みいただけます。

## 研究会事務局

・研究会プログラムのニューズレターへの掲載が、開催直前となっており、会員の皆様にはご不自由をお掛けしております。最新の研究報告を掲載するためそのようなになっております。ご理解いただきたく存じ上げます。Webホームページには、ニューズレターよりも早く掲載しておりますので、ご利用ください。

・日本教育工学会研究会事務局  
〒261-0014 千葉県美浜区若葉2-12  
メディア教育開発センター 研究開発部内  
Facsimile 043-298-3476  
e-mail: jet-branch@nime.ac.jp

お電話でのお問い合わせはご遠慮いただいております。

研究会の最新情報は、<http://www.nime.ac.jp/EduTech/>をご覧ください。

## 2001年度「夏のセミナー」のご案内

今年の「夏のセミナー」は、昨年の沖縄から場所を兵庫県に移し、初等教育における情報教育の実態を中心として、これからの情報教育の方向やあり方等について考えます。そこで、兵庫県氷上郡教育委員会の後援をいただき、郡内の学校の協力を得て、テレビ会議を利用した授業参観をはじめ、多くの現場の先生方にも参加していただきながら、研究者と学校との考え方のすり合わせなどできるように多くのセッションを予定しています。子ども達の実態と現場の先生方の意見や考え、そして研究者の思いができるだけ近づき、情報教育をうまく進めるためのセミナーになるように、皆さんふるってご参加ください。

### 1. 場 所 兵庫県氷上郡市島町

- ・学校見学：郡内小学校（数校を予定）
- ・セミナー：ライフピア市島  
<http://www2.nkansai.ne.jp/ichijima/Bsisetu/Hplife.htm>
- ・宿泊：野外活動センター エルム市島  
兵庫県氷上郡市島町与戸字長尾52-1

### 2. 日 程（予定）

9月7日（金）

- ・「小学生による遠隔共同学習」 授業参観
  - 13:30 ~ 13:50 授業内容説明会
  - 14:00 ~ 14:45 授業参観（2校 + メイン会場）
  - 15:00 ~ 16:30 意見交流会（各校とメイン会場でテレビ会議）  
司会 堀田龍也（静岡大学）
- <全員メイン会場へ移動、入浴など>
- ・ナイトセッション
  - 18:00 ~ 19:30 夕食等
  - 20:00 ~ 21:30 テーマ別セッション（5テーマを予定）
    - 1. 交流学习成立の要件 堀田龍也（静岡大学）
    - 2. カリキュラムの作成 小川 亮（富山大学）
    - 3. 課題設定の方法 村川雅弘（鳴門教育大学）
    - 4. 総合的な学習の評価 木原俊行（大阪市大）
    - 5. 教科と情報教育 原 克彦（園田学園女子大）

9月8日（土）

- 9:00 ~ 10:00 テーマ別セッションの報告会(各10分)
- 10:00 ~ 12:00 研究発表会 5件 各20分  
座長 小川 亮
- 12:00 ~ 13:00 昼食
- 13:00 ~ 13:40 ミニ講演会問題提起「情報教育の目指す方向」  
講師 永野和男（聖心女子大）

13:40 ~ 15:00 ディスカッション「情報教育の目指す方向」

コーディネータ 山西潤一（富山大学）

パネラー 村川雅弘（鳴門教育大）

原 克彦（園田学園女子大）

木原俊行（大阪市大）

足立雅人（郡教委）

15:00 ~ 15:20 総括

### 3. 申し込みについて

参加を希望される方は、電子メールまたは FAX で下記の項目を記入して申し込んでください。

氏 名 \_\_\_\_\_

所 属 \_\_\_\_\_

連絡先住所（自宅・勤務先）\_\_\_\_\_

連絡先電話（自宅・勤務先）\_\_\_\_\_ F A X \_\_\_\_\_

電子メール \_\_\_\_\_

宿 泊 （ ）9月6日、（ ）9月7日、（ ）9月8日 印

参加予定セッション（ ）内に 印をつけてください。

（ ） 7日午後 授業参観、意見交流会

（ ） 7日夜 ナイトセッション（参加希望テーマ名：\_\_\_\_\_）

（ ） 8日午前 報告会、研究発表会

（ ） 8日午後 講演会、ディスカッション

Web からの申し込み：<http://www.hikamigun.kaibara.hyogo.jp/HJK/index.htm>  
（氷上情報教育研究会ホームページ）

### 4. 参加費等について（当日徴収します。若干の変更の可能性もあります。）

資料代として 1000円

7日夜のナイトセッション 3000円

宿泊費用 7日：5000円（朝食つき）、6日・8日：8000程度（朝食つき）

### 5. その他

・氷上郡春日町へは、大阪から特急で約1時間、舞鶴自動車道春日インターから約10分

・内容等に関する問い合わせ先

園田学園女子大学 情報コミュニケーション専攻 原克彦

電話 06-6429-9909 電子メール hara@sonoda-u.ac.jp

・宿泊、参加などに関する問い合わせ先

電子メール hiro@hikamigun.kaibara.hyogo.jp（氷上郡情報教育研究会 堀）

## 日本教育工学会 6月シンポジウム 実施報告

堀田龍也（静岡大学）

2001年6月9日、東京工業大学百年記念館において、毎年恒例の学会シンポジウムが開催されました。

今年度から、学会の総会が6月のシンポジウムと合わせて行われることとなり、全国から本学会会員、小・中・高等学校の教員や教育行政機関、教育関係企業等約100名の参加を得ることができました。お昼前に総会を挟み、午前中のパネルディスカッションは主として学会員を対象として、午後のシンポジウムは広く一般に開かれる形で行われました。

永野和男企画委員長（聖心女子大学）の趣旨説明に続き、午前中のパネルディスカッションは、「教育工学の研究方法論と後継者養成を考える」というテーマで議論が進みました。教育工学は、多くの領域の束であり、領域間の連携や融合によって学際的な色彩を持っています。このことが、教育工学の研究方法論の議論を産み、学会でも何度も討論が試みられてきました。

パネリストとして、赤堀侃司先生（東京工業大学大学院）、池田満先生（大阪大学）、大谷尚先生（名古屋大学大学院）、松居辰則先生（電気通信大学大学院）が登壇され、指定討論者として松田稔樹先生（東京工業大学大学院）が議論に参画されました。司会は南部昌敏先生（上越教育大学）が担当されました。



パネリストはいずれも教育工学に関する博士課程を持った大学の方々であり、同時に本学会誌の編集委員でもあります。このような観点から、教育工学の研究方法論と研究成果の考え方についての提言が続きました。具体的な論点としては、後継者養成のための博士課程のカリキュラムや、学会誌の査読の観点、実践との融合などを取り上げていきました。「教育工学固有の研究方法論」についても多くの議論が交わされました。今後も同様の議論が、登壇者や年齢層を変化させながら続けられていくことでしょう。

午後のシンポジウムは「e-Learning による教育システムの改革」というテーマで行われました。IT革命によって、インターネットや衛星通信等が教育の現場で利用できるようになりました。そのため、遠隔地から講義を受講したり、それによって卒業認定が行われたりするようになるなど、大学の仕組みの変化も生まれてきました。企業等での研修の標準化と効率化についても世界的なレベルで検討が進んでいます。

最初に、清水康敬先生（国立教育政策研究所）により、「教育の情報化とその方向」というテーマで主に大学の制度の変化について情報提供がなされました。続いて、伊藤健二氏（富士総合研究所）による「バーチャル・ユニバーシティの現状と課題」というプレゼンテーションが行われました。特に、バーチャルユニバーシティの現状では、そのメリットや効果について、また、標準化の問題では、米国で進む標準化の例をもとに、学習形態や教材などについて解説されました。また、教員支援体制とメディアスペシャリストの必要性などについても提言されました。

このあと、岡本敏雄先生（電気通信大学大学院）、山西潤一先生（富山大学）、永野和男先生（聖心女子大学）がディスカッションに加わり、「E-Learning」という新しい教育システムの中における学習の成立および学習支援のために、教育工学の研究知見がどのように活かされるべきか、議論が進んでいきました。フロアからも具体的で熱心な質問が寄せられ、活発で有意義な時間を持つことができました。本テーマに関しては、今後とも学会において継続的に議論して欲しいという声も聞かれ、秋の産学共同セミナーなどでも議論されることになりました。

最後に、企画委員会副会長の山西潤一先生（富山大学）のあいさつでシンポジウムを締めくくりました。

## **教育工学事典 好評発売中！**

教育工学事典は会員の必読書です。会員に対する割引の特典もありますので、まだ購入していない会員は是非お求め下さい。

定価： 12,600 円（税込み、送料別）

会員： 10,000 円（税込み、送料込み）

ただし、会員割引は会員から学会事務局へ郵便振替で 10,000 円を送金された場合に限りです。請求書による後払いの場合は、近くの書店あるいは出版社に定価で注文して下さい。

## 日本教育工学会 投稿規定

### 1. 論文誌 / 英文誌への投稿

本会は、日本教育工学会論文誌を年4回、英文誌 Educational Technology Research を年1回発行する。

#### (1) 論文種別

**論文(Paper)** 教育工学に関係のある独創的な研究結果、新規な方法・結果等で、信頼性が認められ、学問や教育工学の発展に役立つ内容を、順序立てて明瞭に記述したもの。10ページ以内を原則。

**資料(Technical Information)** 教育工学に関する研究資料、研究成果を体系的にまとめたレビュー等で、会員に参考になる有効な情報をまとめたもの。10ページ以内を原則。

**研究速報(Letter)** 教育工学に関する研究等の速報、新しい試みやその結果等を記述したもの。6ページ以内が原則。

**寄書(Short Note)** 教育工学に関する意見、提言、討論等を記述したもの。6ページ以内を原則。

**英訳論文(Translation)** 本学会論文誌に既に掲載された論文を英訳した英文。ただし、内容が論文と同一であること、理解できる英文であることが条件となる。

尚、掲載された研究速報、ショートレターを内容的に一層充実させて、論文あるいは資料に投稿できる。

#### (2) 投稿の条件

内容の主要な部分が、国内、国外の学会誌、機関誌、商業誌等に掲載、掲載予定、あるいは投稿中や投稿を想定していないこと。ただし、研究会、大会等の学術講演、国際会議等における口頭発表論文をまとめて投稿したものは差し支えない。

少なくとも、同じ分野の会員が十分理解できるように記述されていること。

著者の中に、少なくとも1名の本学会会員が含まれていること。

#### (3) 投稿原稿の取扱い

投稿原稿は編集委員会で査読し、次のいずれかに取扱いを決定する。

- A. 採録
- B. 軽微な修正を要する条件付採録
- C. 照会後再判定を要する条件付採録
- D. 返戻
- E. 論文としては返戻(論文の場合)

ただし、資料として上記A, Bの場合

条件付採録の場合、照会後5週間以上経過して再送稿されたものは、新規投稿原稿とみなす。

### 2. ショートレター特集号への投稿

本会は、和文の日本教育工学会誌(ショートレター特集号)を年1回発行し、ショートレターを掲載する。

#### (1) 内容と条件等

教育工学に関する実践的な研究成果、新しい試みやその結果等を記述したもの。4ページを原則(内容により6ページも可、5ページは不可)。

新規性(オリジナリティ)は必ずしも高くなくても、実践研究の方法と成果が明確に記述されていること。少なくとも、同じ分野の会員が十分理解できるように記述されていること。

筆頭の著者(ファースト・オーサー)が本学会の会員であること。あるいは、投稿と同時に、入会金、年会費を納入した筆頭著者であること。また、会員は一つの特集号あたり1編のファースト・オーサーとして投稿ができるものとする。

原稿締め切りは、毎年3月1日とする。

#### (2) 投稿原稿の取扱い

投稿原稿は編集委員会で査読し、次のいずれかに取扱いを決定する。

- A. 採録
- B. 軽微な修正を要する条件付採録
- C. 照会後再判定を要する条件付採録
- D. 返戻

条件付採録の場合、照会後3週間以内に再稿が提出されない場合は、取り下げとみなす。

### 3. 原稿の扱いと費用負担

投稿原稿が受理されると、受領書が送付される。

返戻と決定した場合は、返戻の理由を付して、原稿を投稿者に返送する。

採録が決定した場合は、その旨を投稿者に通知し、最終原稿の電子ファイル(MS-WORD、一太郎、本文のみのテキストファイル)の提出を求める。

特別な電子ファイルで提出され、ファイル変換に費用が発生した場合は、投稿者の負担とする。

図表等の印刷について、特に費用を要するものは、投稿者の負担とする。

投稿原稿が掲載された場合は、少なくとも別刷100部の購入が義務付けられる。別刷料金は別に定める。ただし、原則の制限ページを超えた場合は超過料金を支払うこととする。

採録が決定された原稿は、著者校正を1回行う。この際印刷上の誤り以外の訂正、挿入等は認めない。本誌に掲載された論文等の原稿は、返還しない。

## 1. 原稿の冒頭

原稿の冒頭には、題名、著者名、所属機関および所在地を日英両語で入れる。

なお、題名は、論文等の内容が明確に分かるようにし、「第報」等を含めない。副題はない方が望ましい。

## 2. 抄録(アブストラクト)

論文、資料の場合は、400字以内の和文抄録と英文アブストラクトを付ける。ショートレター、寄書の場合は、300字以内の和文抄録を付ける。

## 3. キーワード

キーワード(5~6語)を日本語で入れる。また、論文、資料の場合は英語のキーワードも入れる。

## 4. 本文

次のように書くことが望ましい。

- (1) はじめに/序論: 研究の背景、研究を始めた動機を説明する。また、論文内容の要約と得られた成果を簡潔に説明する。
- (2) 本文内容: 研究の方法(実験方法、分析方法等)、得られた結果、知見、先行研究との比較、考察などについて、図表を用いて説明する。
- (3) まとめ/結論: 得られた結論や成果を簡潔に記す。できれば箇条書きとする。また、残された課題があれば簡単に書く。

## 5. 外国語

固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。

## 6. 図、表

表1、図1のように一連番号を付するとともに、必ず題を付ける。

## 7. 参考文献

論文等の最後に著者名のアルファベット順に一括する。本文中での参考文献の引用は、次のようにする。

- (例) **Sakamoto** (1970a) は.....  
 水越 (1996) は.....  
 .....といている (Sakamoto 1970b)  
 .....といている (水越 1997)

参考文献の記述形式は、雑誌の場合、著者、発表年、表題、雑誌名、巻数、論文所在ページの順とし、単行本の場合、著者、発行年、書名、発行所、発行地の順とする。

## 8. 注

注はできるだけ少なくする。必要な場合、論文等の最後、参考文献の前に一括して入れ、本文中の該当箇所の右肩に1)、2)のように示す。

## 9. 記述

記述は簡潔かつ明瞭にする。本誌読者の多様な専門的背景を念頭におき記述形式に注意する。

当用漢字、現代かなづかいとする。数字は算用数字を使用する。上付き、下付きの文字は原稿の中に明記する。

## 10. 原稿

原稿は、ワープロ等で作成し、A4版の大きさの用紙に、文と、図表、写真を貼って、印刷イメージで提出する。ただし、1ページは、2段組で24字×44行である。

尚、採録決定した場合、本文を記録した電子ファイル(テキストファイル)とそのハードコピー、およびオリジナルの図、写真の提出を求める。図はそのまま印刷できるものとする。図表は1枚の用紙にひとつだけとし、連番号と題名を書く。

## 11. 原稿のページ数

原稿の制限ページは投稿規程参照。本誌の1ページは24字×44行×2段組である。

また、図表内の文字サイズ等から、図表の大きさが決められるので、十分注意すること。ただし、ページレイアウトによって、著者の予定ページと異なる場合が多いので、十分な余裕を持たせて計算すること。

## 12. 投稿手続

原稿は、この「原稿執筆の手引」に従って執筆し、学会編集委員会へ送付する。

- (1) 表紙(論文種別、題名、著者(所属)、連絡先(住所、電話、電子メール)を自由なフォーマットで明記)
- (2) 原稿オリジナル(本文、図表、写真、英文題名を含む) **1部**
- (3) コピー(著者、所属、謝辞を除いたもの、英文題名は除かないこと) **3部**
- (4) 切手80円を貼った返信用定型封筒(連絡先を明記) **2枚**  
 なお、原稿の控えを必ず著者の手元に残す。

## 投稿論文の送付方法

普通郵便(書留にはしない)、宅配便、持参とする。

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学教育工学開発センター内  
 機械系研究実験棟(石川台地区)4階

日本教育工学会 編集委員会

(Tel.03-5734-2993 Fax.03-5734-2994)



## 第8期第14回理事会議事録

1. 日 時：平成13年3月13日(火) 18:00~20:00
1. 会 場：日本教育工学振興会(JAPET)会議室
1. 出席者：水越敏行会長、生田孝至副会長、清水康敬副会長、赤堀侃司、伊藤紘二、岡本敏雄、佐伯 胖、菅井勝雄、永岡慶三、永野和男、南部昌敏、前迫孝憲の各理事、小林事務局次長
  
1. 第8期第13回理事会議事録の承認  
異議なくこれを承認した。
2. 会員の異動について
  - (1) 池田いつ子君はじめ、新入会員計7名(正会員6名、学生会員1名)を承認した。
  - (2) 今井秀雄君はじめ7名(正会員6名、学生会員1名)の退会を承認した。
  - (3) 中原淳君の準会員から正会員への種別変更を承認した。
  - (4) 不明会員は特になし。
  - (5) テップチャイ・サップニ君はじめ86名(正会員38名、学生会員48名)の除籍を承認した。
3. 各種委員会の報告について
  - (1) 企画委員会：永野理事より、シンポジウムの企画内容と企画委員会委員の交代についての報告があった。
  - (2) 編集委員会：赤堀理事より、論文誌編集状況と刊行予定について説明があった。また、国立情報学研究所電子図書館サービスへの参加についての対応を検討した。
  - (3) 研究会委員会：菅井理事より、これまで開催された研究会と2001年度の研究会開催予定についての報告があった。また、研究会委員の交代予定についての報告があった。
  - (4) ニュースレター委員会：欠席の竹谷理事に代わり、清水副会長より、109号、110号のニュースレターの内容・編集状況についての報告があった。
  - (5) 大会企画委員会：伊藤理事より、大会の内容とスケジュールの詳細な説明があり、その後意見の交換を行った。
  - (6) 出版委員会：生田理事より、3月末までに検討したいとの説明があった。
  - (7) 選挙管理委員会：佐伯理事より、役員選挙開票結果についての報告があった。また、開票の取り扱いルールを提案通り進めることとなった。
  - (8) 会 計：清水副会長より、企画委員会と研究会委員会の決算報告と研究報告集の会費未納者リスト対応についての説明があった。
4. 会員名簿の発行について  
清水会長より、会員名簿の発行は、掲載内容を会員に聞き、十分了解を得てから発行するとの説明があった。
5. その他
  - (1) DSPTS教育者会議への協賛を了承した。
  - (2) 情報処理学会シンポジウム開催の後援依頼を了承した。
  - (3) 次回第8期15回理事会：平成13年4月28日(土)16:00から  
会 場：(社)日本教育工学振興会(虎ノ門)

以 上

## 第8期第15回理事会議事録

1. 日 時：平成13年4月28日(土) 16:00~18:00
1. 会 場：日本教育工学振興会(JAPET)会議室
1. 出席者：水越敏行会長、清水康敬副会長、赤堀侃司、池田 央、伊藤紘二、岡本敏雄、菊川 健、近藤 勲、佐伯 胖、坂元 昂、菅井勝雄、中野照海、永野和男、南部昌敏、前迫孝憲、村川雅弘、山西潤一、吉崎静夫、吉田貞介の各理事、小林事務局次長
  
1. 第8期第14回理事会議事録の承認  
異議なくこれを承認した。
2. 会員の異動について
  - (1) 白杵美由紀君はじめ、新入会員計25名(正会員18名、准会員2名、学生会員5名)を承認した。
  - (2) パロ・ルカバル君はじめ、計29名(正会員19名、准会員2名、学生会員8名)の退会を承認した。
  - (3) 明本募君はじめ、正会員へ19名(准会員から5名、学生会員から14名)、太田容次君はじめ、准会員へ9名(正会員から2名、学生会員から7名)の種別変更を承認した。
  - (4) 佐藤有三君はじめ、正会員4名、准会員2名、学生会員2名、計8名が不明会員である。
  - (5) 肥田清美君はじめ、除籍リストの中での関一也君を除く学生会員11名、正会員1名、計12名の除籍を承認した。
3. 各種委員会の報告について
  - (1) 企画委員会：永野理事より、2001年度シンポジウムのプログラムについての説明があり、また、2001年度の企画委員会委員の紹介があった。
  - (2) 編集委員会：赤堀理事より、論文誌編集状況と刊行予定について説明があった。また、国立情報学研究所電子図書館サービスからの刊行物のデータベース化の提案を了承したが、細部については、さらに検討していくこととした。
  - (3) 研究会委員会：菅井理事より、これまで開催された研究会、2001年度の研究会開催予定と研究会委員の交代予定、研究会事務局の移転についての報告があった。
  - (4) 顕章委員会：村川理事より、第16回研究奨励賞・論文賞についての報告があった。また、奨励賞についての調査を再度実施したい旨の提案があり、了承された。
  - (5) ニュースレター委員会：欠席の竹谷理事に代わり、清水副会長より、110号のニュースレターの内容・編集状況についての報告があった。
  - (6) 大会企画委員会：伊藤理事より、大会の内容とスケジュールの詳細な説明があり、その後意見の交換を行った。
  - (7) 選挙管理委員会：佐伯理事より、会長・理事・評議員の選挙結果についての報告があった。
  - (8) 渉 外：坂元理事より、科研費の審査委員選出、複合領域の分科細目の見直し申請、著作権の在り方を話し合う会発足、バーチャルパーティフォーム報告書刊行、についての報告があった。
  - (9) 会 計：岡本理事より、2000年度収支決算、2001年度収支予算についての説明があった。
4. 会員名簿の発行について  
清水副会長より、会員名簿は、会員数・掲載内容等を確認し、年度内に発行したいとの説明があったが、今後は中止も含めて再度検討して行くこととなった。
5. 総会の開催について  
清水副会長より、総会の公示について、及び議案についての説明があった。
6. その他
  - (1) 科学技術振興事業団への論文誌寄贈を了承した。
  - (2) 道都大学市民文化講座「フォーラム21」の後援を中止することを了承した。
  - (3) 次回第9期第1回理事会：平成13年6月9日(土)13:00から  
会 場：東京工業大学・ケータリング食堂

以 上

## 日本教育工学会第17回通常総会議事録

日 時：平成13年6月9日(土) 12:30～13:00

会 場：東京工業大学百年記念館

出席者：306名(当日出席者93名、委任状提出者213名)

定款第47条により、正会員(現在数1,532名)の10分の1(154名)以上の出席者であることから、総会が成立していることを確認した。

議 事：

### 1. 第1号議案 2000年度事業報告および収支決算

日本教育工学会ニューズレターNo.110の2、3ページに掲載されている議案説明書に基づき、清水康敬副会長より、2000年度事業について、岡本敏雄理事より、2000年度収支決算について報告があった。また、監事欠席のため、監査結果がプロジェクターで提示された。審議の結果、異議なくこれを承認した。

### 2. 第2号議案 2001年度事業計画案および予算案

日本教育工学会ニューズレターNo.110の4、5ページに掲載されている議案説明書に基づき、清水康敬副会長より、2001年度事業計画案について、岡本敏雄理事より、2001年度予算案について提案があり、審議の結果、異議なくこれを承認した。

### 3. 第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件

日本教育工学会ニューズレターNo.110の6ページに掲載されている議案説明書に基づき、水越敏行会長より、提案があり、異議なくこれを承認した。

### 4. その他

- ・ 学会のホームページによる情報提供を積極的に行う必要があるとの提案があった。
- ・ 水越敏行会長から、退任の挨拶があった。
- ・ 清水康敬新会長から、新任の挨拶があった。

以上

新入会員

(2001年4月29日～6月9日)

■ 正会員 12名

|        |                          |            |               |            |               |
|--------|--------------------------|------------|---------------|------------|---------------|
| 池田 幸夫  | (山口大学)                   | 長澤 武       | (広島大学)        | 神月 紀輔      | (滋賀大学大学院)     |
| 市川 洋子  | (千葉大学)                   | 藤原 伸彦      | (鳴門教育大学)      | 小林 久美子     | (お茶の水女子大学大学院) |
| 岩崎 日出夫 | (北海道東海大学)                | 明樂 五月      | (長船町立美和小学校)   | 齋藤 智世      | (静岡大学大学院)     |
| 上田 学   | (大阪教育大学教育学部<br>附属天王寺中学校) | 山岡 章浩      | (鹿児島大学)       | 田中 さやか     | (大阪大学)        |
| 内山 恵美子 | (西遠総合教育センター)             | ■ 准会員 1名   |               | テールンルアン ピヤ | (大阪大学大学院)     |
| 榎本 恵一  | (高知工科大学)                 | 村岡 正樹      | (さいたま市立三室中学校) | 堀 圭二       | (滋賀大学)        |
| 遠藤 信一  | (東京工業大学工学部<br>附属工業高等学校)  | ■ 学生会員 12名 |               | 松下 亜希子     | (神戸大学大学院)     |
| 梶田 将司  | (名古屋大学)                  | 市村 昌之      | (群馬大学大学院)     | 道之後 良      | (東京理科大学工学研究科) |
|        |                          | 小野沢 美明子    | (東京学芸大学大学院)   | 矢田 敦之      | (鳴門教育大学)      |
|        |                          |            |               | 山田 雅行      | (大阪大学大学院)     |

学会日誌

7月21日(土) 研究会「新しい学習環境の展開～研究の広がり～」

(大阪大学人間科学研究所 大阪・吹田キャンパス)

8月25日(土) 研究会「ITを利用した教育実践と教師教育」

(東京学芸大学)

11月3日(土) 研究会「ITと国際協力」

(琉球大学)

11月23日(金)～24日(土) 第17回全国大会

(鹿児島大学教育学部)

2002年

1月26日(土) 研究会「教育工学における新しい研究方法論」

(名古屋大学)

3月2日(土) 研究会「授業研究と教育評価」\*

(宮城教育大学)

\*入試日程などで変更される可能性があります。

ニューズレター制作 編集長:坂元 昂, 編集委員長:竹谷 誠, 委員:野嶋 栄一郎, 松居 辰則, 佐々木 整  
拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426 - 65 - 1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階

社団法人 日本教育工学振興会内

電話 / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp 郵便振替 00180-0-111042